

新春トップインタビュー 企業・団体のトップが今年を語る



た、2017年には、本社敷地内に移動式水素ステーション

世界唯一の技術を目指し、未来を創造

高松帝酸株式会社 代表取締役社長 太田 貴也氏

昭和47年設立、高松帝酸(本社:高松市)は、酸素、窒素、アルゴン、炭酸、水素などあらゆる高圧ガスの製造・販売を中心に、ガス供給設備の設計・施工、関連機器・資材等を四国一円に提供している。ま

研究にも積極的。そこで、昨年の4月、社長に就任した太田貴也氏に、同社の特徴について話を聞いた。

「当社の特徴は、本業の高圧ガスを活かして、素材や新技術を開発するプロジェクトが社内には在籍し、次

た、2017年には、本社敷地内に移動式水素ステーションを開所するなど脱炭素社会推進の取り組みや

世代を見据えた新しい素材や加工技術の開発に注力しているところですね。そのひとつが、希少糖です。香川大学、香川県と協力し、弊社で希少糖の実証実験装置を製作して、研究を実施。現在、この装置は世界でもめずらしく、まだ市場に出ていない新しいタイプの希少糖も生産できま

す。この希少糖は、今後、創薬・新薬への臨床応用が期待されています。さらに、ゴ酸が分離による水素製造の実証実験を予定しています。この製造方法は、発生した水素圧力が150メガパスカルと高圧のため、電力を使って圧縮する従来の高圧水素の製造方法に比べ、省エネが期待できます。また、製造時に発生するCO2は、ゴ酸の製造に利用できる可能性があります」と太田社長は、目を輝かせながら、未来の技術を語ってくれた。



高松帝酸株式会社

徳島営業所/ 徳島県板野郡松茂町笹木野八北開拓188-3 TEL.088-699-6636  
本社/ 香川県高松市朝日町5丁目14-1 TEL.087-822-5222  
<https://www.takatei.co.jp>

# 付加価値創造四国のために

高松帝酸社長 太田貴也氏



専務時代の一昨年(2023年)に30年に向けたビジョン「V2030」をまとめた。V2000「V2000」に続いてのもので、これまでは幹部がまとめたトップダウン型だったが、今回はボトムアップ方式。コンサルタントは入れず、社員から意見を集めてまとめている。

まず「10年後にこんな会社になってほしい」というキャッチコピーを社員から出してもらう、それを約50の「経営デザインシート」にまとめた。その

シートを元に「将来の付加価値・社内環境・地域社会」の3ジャンルに分け、計11のサブユニット(SU)に細分化し、7カ月間で40回の議論を繰り返して、21年3月に社内発表会を行った冊子にまとめている。

こうしてできたのが「V2030」で、その中で例えば「AI・IoTで四国をリードする」という目標を掲げる。本社の溶接実験棟にまでもなく協働ロボットを導入する、構造体(MOF)の研究開発にも取り組んでいる。22年に3億円をかけて本社の向い

先導的な提案をおこなった。顧客がグローバルな競争に勝てるお手伝いができなければならぬ。当社の提案レベルが高ければ高いほど、顧客の競争力も上がる。そのために当社も日々研さんしている。調の仕事も行って

売上げにつながっている。今後は半導体などに応用できないかと模索しているところだ。また、ダイキン工業の空調機特約店にもなる。そのほか、金属有膜構造体(MOF)の研究や充填圧力向上の研究も進んでいる。22年に3億円をかけて本社の向い

